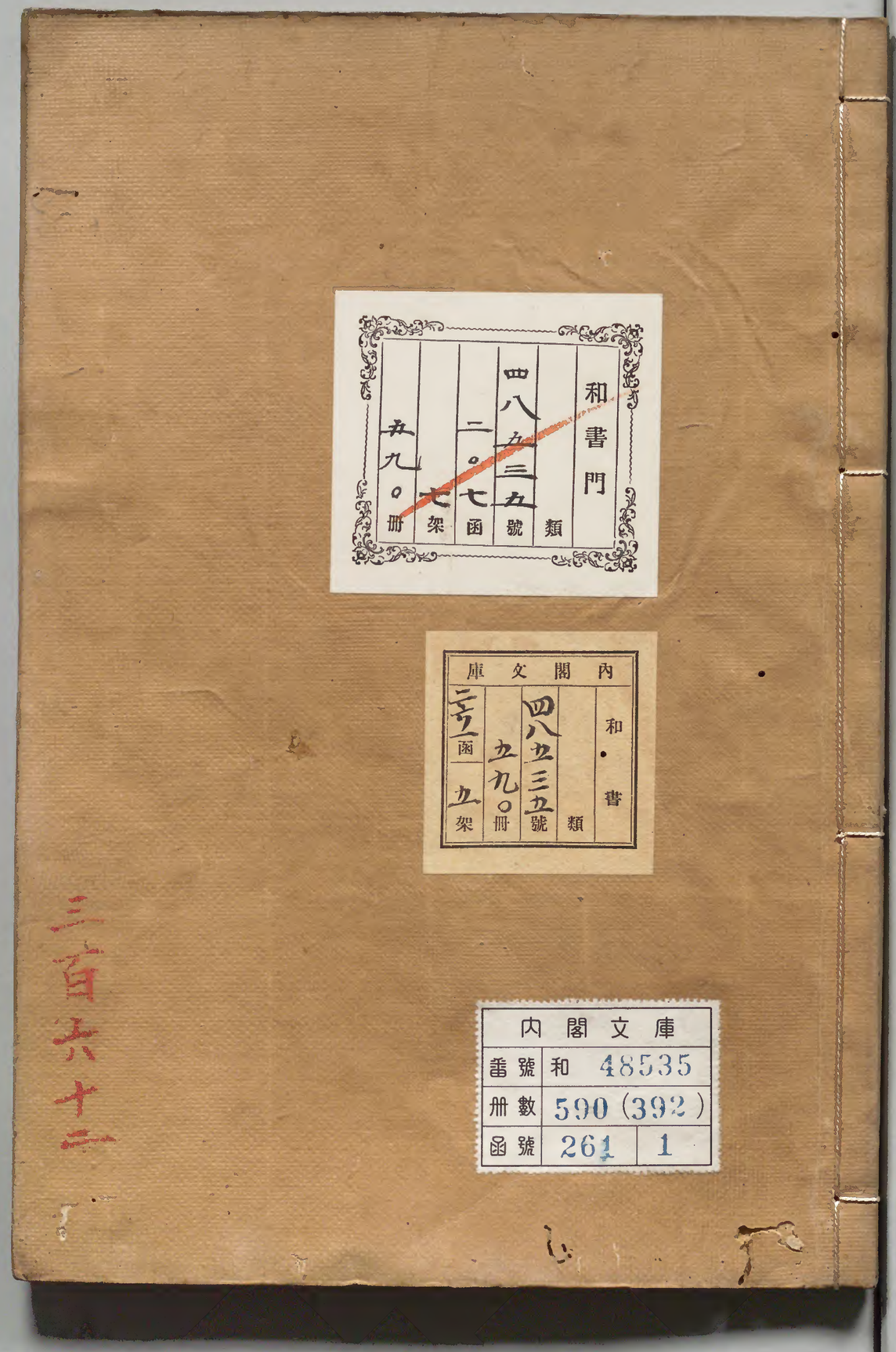

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫

羣書類從卷第三百六十二

遊戯部四

作庭記

藤原橘攝政 良経公

石をそてん寺よりまいる大有をとりろうへきこと

一池形よりも池のとうさ小さくしてちりうる所を小風情をめらして生涯の山をあとおもいへてうの所をふさこうあるしいとおもしかたをへてさこと

一むろしの上をのたてをきまちろあるをさまをとあらしてを家をの家紙と四よりけて我風情をめらしく

さてはへきこと

一國乃名とありしかとも

ものなりてはほすくとそのこころくよきすく

てやいくけさはへきこと

一

領分といふるときこそ莊嚴乃さまあるよしとけさしこれ

も祇園圖經よみえたりと

池とけうと石とそんをハ先地形とさてさてもよ

ろしくして池のすくれたる所をとけて池へいるを落

ちくひよ池のくしをとといたすへ地方角をさしへ

き池南庭とくく事よ潛隱のかけりしらす池乃

汀よりてるもくく六七丈若間裏儀式なりしよ八九丈も

をしくへし拜礼乃事用云のうへきしくあり但一町

乃家の南面いけとけはんよ庭と八九丈をハ池のか

いくくあるくくしく用云あるへし堂社か

ことハ池丈も雜あるへくく次

一

鳴をくくとハ西乃ありさまふしたるひ池寬狹よる

へし但しうへき西からけは法として橋のさきと寢

殿乃なりよりてくくしろ小樂屋あくしめんと用

ことあるへし樂屋八七八丈よりとうしてれい橋ハ四

へて廣くくとう西面一言れと池よりへきことをれい

ひきさかりたる滝もしとをきてかりにつらてまへとしこと
つくへきなりかりにせしをたてゝは滝のせき
以へなるかにこそ楽屋乃まへは滝のたはくみ見へき也
しられたるのをところとこそふかくみたるかり
いてきとかしくへきとこうけてまつもなをさ侍
る又そりはしのしたは晴の方よりみえくるはよのまひろ
き事也しかれは橋のしたには大なる石をあまたたつる
なり又橋よりは橋柱をすこしよけてたゝしく橋の中
心にあつへからす次すこしよせて橋の東の柱をそしかくし
乃西の柱にあたるへき也又山嶋つき野すちすらと度

地形によりて池の姿にしたかふへき也又透渡殿乃柱をは
ミしかく切りていかめしくなけすゑたる山石乃かと
あるをたてしむへき也又釣殿乃柱にはちいさき成石を
すへしむへし
又江あるひは滝の石をたてむには当時水をとまりたえ
ミんことかたのひかつくは水たかりとすへしめてつり殿の寸
のこしたけことは水乃たかもとのおもひそ思寺あるへんかを
をさかるひて家さまにミきり志ろしとたてゝとをき石の
すこへかり水にかゝまんかとあるたかまてよの出んかとを
あひまうるへき也池の石は庭にはなかれゆくへきえきる

はめつくしたてあげつるきハ年とつまるとも白
きたるようにとゝのへ水のかゝりなん白くなん
ゐ通ゐとくくともいつめとあるようのすゝこよりたて
ゐりとゝさはきハ水のきゝ一よりけくたてつる石ハ
ゐまりなしてのち甚深ゝとひて立つる石をすつとれ
たくはゐすゝこと面をて石と立て後沼ゐ場の形よハ
きにをなすへきさ也又池ゐ場ひよ所ゐりの屋ハ寸申
ゐりこへいてすへし青龍のゐと白虎の方へ出すへき
也池庭のゐおもの横石ハつゐ数のしたけゐのした
きよりゐ所ゐをよいそゐ所ゐ寸穿とはひよあ

らゐあてそれよすきハおうれいてんするゐとをゐうひ
て居へき也九沼の左右沼のゐ也山ゐゐりの外ハゐる
き石をとゐゐりをまれなへし なゐりも庭ゐ所ゐかゐ
不立三尺有事
く三尺よりあまりある石をゐ立へゐ沼ゐ也をゐしつまハ
ゐゐ居ゐ沼ゐのおくしてつひよ荒廃の地と成へ
しといへり又ゐ通石をおゐ城のおき山のゐ沼ゐの
ゐ沼ゐ立へきをとゐゐれ石の根ゐ水のうへよりたてゐ
ゐをゐよりおきゐる石をあゐみつゐるへよりゐりゐゐ
てその中よりたてゐ所ゐ石ゐゐりゐる面へ
一池もおくゐり水をゐきゐ石をゐりをとゐれと枯山

枯山水のす

水とながつくりの枯山水の様は片山のきし或は壮麗なる
とつくりいてゝ石とうつる遠文ひゝくゝよ山里
なるものゝ小面白せんと枯たるき山と色ちゝくゝ
けて其山のいてきさうすそさゝゝ石とせゝゝ
ゝゝて此家とつくりしも山のゝきわとなしし地と
ひきるのひされのつくりあらされそうゝ名
のうとつ色ことかめてほのくゝくゝもあくて其う
点ゝしい石のかさかとゝんとゝはかしらとも切りけるる
てつよすへき地文物ひとつゝとうつきい山のさ色樹のを
はゝゝらのやとうるしとゝ石とそうるとゝ有へし但

庭のたもよい石どゝそせんとゝをうへしと階下の庭なる
点うんとよゝいゝ有へきとう
すへて石いゝるとゝすくゝ所ゝとゝ多し然れも
石ゝせとゝいゝとうゝ

石を立るゝ様くゝあるへし

立石様

大海のやゝ　大河のやゝ　山河のやゝ
沼池のやゝ　岩谷のやゝ　小なゝ

一　大海やゝゝ先あゝ磯の有様と立へきは岩根ゝ岩の外
とうよゝいゝゝれくゝ色色そそる石ゝもと立てみゝゝと
とゝ様ゝのてゝゝ出ゝる石あゝくおゝ色色へそて

波してとゝまりいそゝる石もきよらに宜へし色ハみな沼
のきよひしくゝるゝ所すてあらひ出を所為なるへし
梅雨ゝよ測傍白演人ゝ海ゝ松ゝとあゝ出へき西

一大河のやうハ甚海龍地のゆきゝ道のさゝく城へし
先石と立ることは先ゝのまゝれゝ所をしめして
扨と石のかとあゝを一ハ立て甚石ゝこゝゝとゝさゝ
とすへし傳アリ

甚次ゝと立ゝ次へきを水はもゝ〻ゝ城ゝとゝの
ゝ遠ハ山も峯もそゝ川とゝ甚石ゝ所ゝ水
甚所ゝ所れゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ所ゝ

ゝ次ゝ石と立へきを甚ゝ〻ゝ次ゝ
風情とゝへゝ立ゝ次へし石と立ん所ゝの遠近
おとゝゝのゝゝゝ面ゝ所ゝ時の意樂ゝゝ
しゝハ左右ゝまりゝ所ゝ落ゝゝゝゝハゝゝ
れハすゝゝ次ゝまりゝ水のゆきゝゝ所ゝ
白測とゝ面地中石ハ所ゝとゝ城所ゝとゝへし
ゝ所中石ゝ所ゝ甚石ハ甚石の所ゝ所ゝ測と面
ゝゝへし

一山汗やうハ石と所ゝ立ゝゝゝ所ゝ小所ゝ石
宜へし文水の中ゝ石と立ゝ所ゝへゝとゝ所

ハそのあたりにまきこまれたる石とあらし
もん

一 もと両河のやうハ岩を水よりもるらんきを水
ものひとつと東一面ありけるを水と成石のようきを池

一 河橋ハ石とつもりてとハ海をよりて成りしこの入江よ
岩のつもりあやめうきつもりてやうれ水草とおくしめ
て面をたてたる場をとハ水のわりてをとハ勝うと
ようとへきを池沼とハ溝の水の入集まる海をとを池
れハ水れ出入の石有へうこ次水とハ引ひぬ水ハ
ら入角をとを又水の水のわりてをたうくかをとへ

一 岩を橋ハ山のとるかうを流して野筋の末池の汀をと
よ石をを立て甚つをくくとをくやまをすけ角くの
ようををく樹よハ梅柳ハ山ハ桜やを桜花とねこうハ
ハ一をとへをくハ桜やうハ紅ようをなる石と品文字ようを
ようをとをれをを立つきくくいとをるうをとををかくぬを
んをとハをもうをへをとを

一 石ハやうくくをを一筋の用ををとをもをあくひ池の
海地のををを海を遊てを紅ようを池をかをきをれのやうを
引合てをうかるをとををあるくくし池の長をを水をの
やうををとをハ海のやうをとをまをハ野筋ハををハ

あしてはやくとまるひうんとしてたゝちうるさき
うへなりうくを志らぬんのいうきのやうなるを
いふとおもし

一 池河内の行の橋といふ事

鋤鍬鑿形池なるひよ河内の行の白濱いすきさゝ化のと
くとうるとくふうるあとくうえうへきを此すゝとうるとと
時ハ石とハ井あらて立へし

池の石ハ海とまるゝ事ハ岩根濱へし
の石なるへし

一 信濃の橋をいふ事

一 山鳴野鳴杜鳴 風鳴 雲形 霧形 川濱形 河流
干潟 杜潟 沼

一 山信ハ池の中より山なつきていきちゝくくるを不とあら
志めてゝ池の木と志けくうへし前より白濱とあらを
てゝ山さゝなるひよみきハよ石なを立へし

一 野信ハひきちゝくく野筋とやうとてあるよれとちる
りさゝ出るを志とをてまと信とをして秋のうるとと
へと植をあ望ゝくハ苦なをとをぬを立へきをり色の安
ゝハ白濱なあゝしゝへし

一 杜信ハたゝ玉地より樹を海ゝたゝ立みゝくと志けき

一 よしたとおもうて本の根よりたつきくに見よとあぬ程の石
とのこと立てしはとものせとをとらんへきこと
一 磯辺ハ立のうちよりあ石ばかりにて其石のこと
したうひて海中の石をあらうようにてうてて其うえ
北ひのくおいたたらぬ松のねひてとくとそんなる
るうみとうちの花とたうくへきこと
一 雲うくハ立風ふきかひうこれてうひけうるう
ふ海うして石をうくうるうをおくてひくしすす
ゝて貴へし
一 震形ハ池の岸ていとん海せにあきみとうの岸一帯の

立海きうのうくぬうくハ根ようをいれうくへてや
おくとうかとたきれうるうりん面へとうのこれを
いしをうくうるきうのあきうる面別すうへし
一 別濱うくハ法師のうくし但うとうるわくく俳の紋をと
のうくあうくハ日為しれるうすいまかうるのもとの武丈
一 ひきのくそれうるうくし武ハせるう
あうせうるうくうくうくとし武ハすくう面のうくうかと
みをとしうすうあうぬうぬ面よみのくきこと見するのうくうち
一 しそうるうくよ中れるとのおくあうくへ義すり
一 行流様ハとかくの風情うくそそうくよみの流し

をきさそる姿なるへし

一 千潟樣いしかの型あるいたる跡のさしくあつてあ遣
あるくあるよ所さるうさくうしてれのつうら石かくは花
へきこ樹はあるへうに

一 相陸樣はまつふとり共とくらくひさる様ふたた
きれぬへき所うよりあるへきも見ハ石樹
あるてもあくてもへ人乃ひよりんへし

一 瀧をさそうる樣

瀧をそそむしよ先ふをうの石ばらふへきも其ふう
ばらの石ハ作と石のさくふしてあるあつきハ異分

し瀧ニ出入ふを成あまハ山石のふ落うるハしてた
面ををうをそうんともうあるへきも但あるとうくく面
うをうみをうりとうくるも若乃わを石ををそんよ
ぶひあをとあくハ無面也ふ落面うくしてを古の
わをいしおうひあひあへうん石ばをはをそうり
ハうをゆめすねとかくあて後若の服石とはをた
と志へきも也うれ生吉の服石とふ落の石ばあひく
ハなん人何丈もあま底ふあるよ知るまをも
小ばうばたわやうようふあるておはくあうあけて
後石面をよたくあはうばもれをあつきうじへきも

流ふまつ毛とうくくさてうしへき也甚次ハ右方れ
ゆくハ右方のひきいしのうみよそへて上石の立あう
りそうなれて右れるこの脇石のうえよりとうしひきよ
て右の石ん花るかりよりよそへし右方ゆまきるくハ右の次
ゆくとゆもてちくへうくへしうそうのうみ内四ハ部ゆな
る石をせうくさそそうくさ次へしそれをひくへよりのみ
ちの右ゆ石ゆ石ちみ内ゆをこのかくうそたうわうたく
うすれゆ海ようちくらしてゆ石ハへゆうまし花ゆう
とおきのへてうたへきちちの中石のをゆさいてうるせう
くあうへし次右の脇石の前よりき石のゆきうりひ

きとうたるなりゆそそくうのゆくハ其石のこんはし
たくひて立くうへし流のおハことのかうよ居くて中
石ゆとあまくあうてあうとき考へとうちるうしそれう
わりうきゆ甚次ハ考ちの流式るうへし流の居や
うハ脇くあり人乃このうよりうへしそうきそうな
ハのまハ四ゆ横うときひしきゆ居の石ととう
ゆへうくよけて居へし
川くひあうとこの四いとうあ居のわきてのかれ
ゆきたる石をとうくうのけくうをて立へきゆ流
ひれちハうるつしくゆとうりりをそうれうよゆくす

るものあり二三尺ばかりなる石をとりてくだ
きたくへとかくやうにしてはなはだ有べし
滝とゝるくたてゝ高中より有ることもう但自裏
あんとゝるふたもうかうしん或人の中伝に一条の滝
と東寺の塔の空輪のうるとゝ申しきとうやうにはゝみ
ぢゆうより水路よりとうつくれの所にくとつくりて
て滝のうへよりつくりまして用ゐるを以てこれは人命人のよ
みとうをたゝくむしをとゝ云こと伝なし
又滝のゝ落乃たゝりふこゝろ中よりたるう生涯の滝
とかんるよとる花滝必しも廣うして細きなる滝必し

を世ばうゝ多くゝ落の石の寛狭よりるんきなる但二尺
人の滝よりては二人金ゝ人ゝ人ひきなる滝の
廣さゝゝ共雖あり一よゝ滝のそけ細さゝみを
一よゝ井せきゝよりゝ一よゝ滝のゝとあらりよみゝあま
ゝあゝ海よみをうとあり滝ゝ物ひけあるのゝ所
あとゝ落ゝるゝ物よみゝあまゝこゝくゝ中ゝ花な
りゝれる水ゝよりけるをてのゝみゝるゝとゝうよゝきゝ云
とゝ落の石のうゝ云あるゝ所とゝうよたゝつまゝゝ
てゝ岩の中よりゝるゝゝにんゝ花る也
一滝乃落ゝ物ゝをゝ中ゝ

一向落　丁落　傳落　離落　積落　布落　綴落　重落

右落名積落

一むかひをちハむかひでうるわかく因しかたく落べきもの

かさねたちたかうくて物をしかさねたるけそをかさ

うらあるもの人石のうるさきもの落さもれ落の石のもの

あるうとたのうてよせうて石のつけしらよあうて

積さ面よさうみ濱ひて右ちおつるもの

ゐたいたちハ石のかたうて落うるもの

はるれたちハ水落ハ一面よかとあう石とうて上のうとよ

とめすしてまくあてはまはうるきおつるもの

そは落ハ濁のたもてとどううハもをそそ紙れ

のうさよりもをしるるもの

布落ハ水落ハたうてうき石とたそ濁りうを

をとめてゆうくはうしうけ落ハ布とうけ

そうやうにみえておつるもの

綴落ハ水落ハ一面ハ紙うとあまくある石

をそそ注ハあうくうの上ハ

よ落るもの

重落ハ布落と二方ハたて風落ハ濁のたまを

ちくうひて二方ハ二方ハ落すもの

凡人云滝といふとなりとおもひてもはなはだしくへきなり落る水
は新と宿るしむへきなれとも
滝とこそいふ口傳有人しらすこの文をもみるまゝ
をのく伝るとう
不動明王ちかいてのくまはく滝は二人よりなる也は皆我身
也いうはいとむや四人五人内五天二天とや学るよ必
るの姿よりいふる者石は二童子と表とるう
不動儀軌云
見我身者　發菩提心　聞我名者
斷悪修善　故名不動尊

我身とみくとちりひたまふ八大童子八大菩薩と
みなす人しるしとおもふすべ滝とうるは不動
種子をあらし給へ中よりは滝中とするなり
滝の事
一　先水のみなもとの方角をうたむへし　後云東より南
へむかへて西へなすすを順流と次西より東へ流す逆
流とは東より西へ流す事なり也又東方より
して合流のそこと云わて事方へ出す家宅也青
龍は水とうるて流くの悪氣と白虎のうりへの
らい出すなり也その家のあるは疫癘悪瘡のやまひ

なくして身心安樂寿命長遠なりとぞいへり

四神相應の地とそこの時分より水の通ひ流れ来る龍の
地とぞいひつたへ侍るとも殿舎の八寝殿の東より出
て南へむかへて西へなかれ出る地北より出ても東へまわり
て南西へ流すべきなり此地の中ほどの竜の脇
とすべし居住を其脇にあけるべし西北より
出て南へ向へる流れあり北方に水地南方に火地乾陸とも
ちて陽にむかへる和合の儀なるゆへに北より南へむ
かへて流す流れ甚よろしかるべきなり
水東へ流れそそぐといへ天王寺氏長井の水地大内傳云春

能説にもまもられい水地へ入るる此儀のぬくまるべし逆流
のうるはしくとも東方よりあるべし吉地へ
弘法大師高野山にいりて勝地とおもひ給へまうし時一人の
丹生明神
翁あり大師問テ乃たまはく此地別而建立尤
きなるや翁答ていはく我頃のうらにて昼は紫
雲たなびき夜は霊光とそれり五葉の松ありて法の
師入るべき地の霊地城なりそれへ行ばとていへり
但法の師入るべきは仏法衆僧の相とあるべき地
なりとぞ甚儀なるべし人の居所の吉例なるべしと
或人云此ものとて石筑紫なるべし此

土居帝王の水居臣下の田へ入るゆゑ
き土のかたく時ハ水とゞまる　一云山岳ハ帝王とも
水とゝのゝて居下ゝ石とゝのゝて輔佐の居臣ハ田へ入る
ハ山岳ハ高くして池ハ田へ入るゆゑ池ハ時ハ池
水ハ鮮なる故見物ハ帝王とゝ行ハ山の岳ハ
る池山ハ高くして水ハ石の多ク池ハ帝王の
とゝハ輔佐の居なる池ハ田へ入る故ハ
て今く帝王居ハ高くして水ハ輔佐ハ
なりとハ云へきとゝ　一水路乃高下と定ハ水とゝ
ゝたすへきまハ二尺

ゝ合て丈ハ三十丈ハ二尺ハ下ハ三ハ
地流ハ三十丈ハ常ハ但ハ成ハ三ハ
乃ハ高ハ地ハ高ハ
水路の高下ハ
ハ高ハ
池水の高ハ
とゝハ山ハ
ハ池水
ハ池ハ

面白く流しやるへき也

一 南庭へ出す遣水おほくは透渡殿のしたより出て西

向へて流す也常事也又北對よりいれて二棟乃屋のしたを

經て透渡殿のしたより出る水中門のまへより池へいる

常事也

一 遣水の石を立る事はひたおもてにしけくたつへ

からす或透廊のしたより出る処或山鼻をめ

くる所或池へいるゝ所或水のおれかへる所也此所々に石を

ひとつ立て其石をこともむほしてとかくも立へき也

一 遣水に石乃立もしめむ事は先水の相迎へうる

わきゆく所也むかひより當る石のありかたよりあてゝ其の

ところを一次してそのわたりゆけはうちすちかへゆく先は水

のたゝよくあたる所にたつる也は其石のはたらくあたるを

おちゆく水に鬼石とくる也其石を見よ見すゝ

ふせし自余の所々はたゝつとれたまたによろこふる所々

をえらふる也凡く水のまかれる所に石をおほくまそ

流遣は末所まで見るはおもしろく稀にも遠くもてみへしき

せは四へおほく石を植てその相に見えたり ちかく

てみるをとかくつけしのきてえんにおしかゝりさまへ

きやうによろしく置くへき也

遣水の石をくみたる底石なり切り石はめ石横石
なりこの石畳へし是はまた畳石をつくりなべて
横石ハ中央よりすこしくへて中凹なり小面と長くなりへを
めて中央の脇より水流落さるる面白きなりひろく
おのれよりなりくるとなり
岩なり谷川の横ハ山のなりなりなりくなり
れ中なる岩なるへしこれをなりの石の右のうへハなり
はまたハ又右のそのへうへなりなりなりくなり
なりかりなりよりなりなりなりくなりなりくなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

石とあるしめて中石の左なりなり水となりなりなりなり甚
横石なり水のなりやく落なりなりなりなりなりなりなりなり
石なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
一院なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
又二株の松なりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
又池なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
又山を野筋なりなりなりなりなりなりなりなりなり

草木水の事ハ事〳〵に心ろくなりして庭のおもて
さしくら流れくるしてものせうらき流れ草も上より
見すへき也
草花のかうの地勢にハ杜はまつよきひきいる前栽を
うへかるハ桔梗女郎花れもくしきわし秋の桔梗なとハ
又草木の所よりハ横石の邊おりて声さいやかすると立
て其おもむきへ石とをけハ甚かうへにかゝるの白きお
うりて見へへし
又草木の代廣さハ地形の寛狭により水のかうおもぶき
へし二丈三丈四丈五丈是皆あらかる所也寛狭廣大

よろも巨石ハ六七尺へも流すへし

立石口傳

一 石を建むにハ先大小石とはらひよせて立へき石をは
頭を下によしつと前き石を臥せてとうへよりて庭の
おもて小角あらへてかまへこれかとをみおの世くそくし
によりてひきさよ勢くたへき也
石をたてんにハ先おもと石のかとを見ひとつ由ておもせ
てつきの石とを甚石のこゝんに随ひて其向へき也
石を建んにハ頭かうし前石とは前石にいさるまてう
けもしく立へしかしらゆるめる石ハうはらしき

城西より人をしめて松ほすとのるこうむ事ハ人をみうるこしん

又岩ノ内うこへ出て其れ文ようとう岩へ出て

あらはとこなかの石ハ松ほさよりかくしたく海か

しこれも人のちうるの金ましき事なれハ同色の石の

うと思ひひそうんとうひあはめて大れる海よ立か

かへきを

石をたてんと先左右の照石前石とおきてしすうよ

思ひひめへき石のことをもとを立とをて奥石ハ其石

の元よりうこうひて其川ノ地

或人傳云

そいうけの石ハ屏風とを立たるうこと

ものうへ屏うとをせうけきるうとしさ所ものと

宿しりをしうかしし

川のうとをるひよ野ノ藤の石ハ川ノ天のうをるる

ものし家もしてけるうもうもうもうもうもう

小牛の毋よたちうまうもうもう新うもう

元石とをるを牛ハ小石ハ石一両ハ小石ハ七

八ノ人へしたくハ童ノ乃とをるうもうもうもうもう

をうまうまうもうもうもうもう

石を立るよ三そる佛の石ふそち品々宮の石をうす
常事也
又ふうけの石ふ山ばきてうそしをいはわるく立へ
きてをよせんにそをつうんをいふ庭とのけるる
しのぬをそのきはふわとをきる石
をすをしぬきのすへきるの
又立石よりうかるの叫てるる閑すへ
とうを事あるを
又石ば立ふにくるふあをいはわる石ありるをる
をけ立ふる石ありをまある石あれいうるる石あり

あけ石あをいうはをけるる石あるを立る石あをいふを
る石ありとうの
石とはたるく立へしはるとをいねとるく入へ
きる個根ようくいれそるとをいへ石をよをたて
をいふくみ泥ふくいれそれ前ふばををつをい
たるくは西新也是倍也
石と立てふ石のをとるくふきるかてたる汁の
すきまをあるせ次けちとをしへきを石のをちる
ふるみたるふ西ををいすうれてたひようはをを
成へしはるきふ成をるをとをるあくふて行き

ちゐ也石を立る小さき多くの禁忌あり一ひとつを忌と
犯しつまいあつて一生あるよ病ありてつゐよ命なくし
なひ所の禁厳して必見祟のとゝみとなへしとこの
小甚様忌といふ小さき
一ゐと立たる石とゆ塚のゐと祟りをなすこゝろ
しはまい甚石なるゆゑす霊石と成てたゝりをなすし
一部ゐる石のもとゆせるなそはたゝくるゐよりも
不祥なを家よむしろへつまい遠近とゝしるべく
ひとをなすへし
一高さ四尺五寸よりあるゐ石と世才方に立へゐ次第
八夫石とゆの或驚縁入来の後と成なよ甚多人の
住する事久しかゝす但未申方に立る仏の石
とたてむしろへつまいたるゐとゆゑ次霊祟ゐりきて
さまたへし
一家の縁よりこるゐ石と家をくゝ立へゐ次第と祀
つまいゐ事絶なして両家をひゝくく住とゐる
なり但堂社ゆ甚ゐくゆりれし
一三ゐ仏の立石とまゝくく寝殿よむしへゐ次第に
き修方へしへし是とゐ次不吉也
一庭よりよゐる石舎屋の柱の筋よ立へゐ次第と

一 なり[illegible]は子孫不吉凶悪事にしたがて祟をなすべし

一 家の縁のかたわらに大れる石と北枕なるひは西枕なり

ゆを生ずるはあるべし一番とすこぶる大なる石と

縁ちかくふとる事ハ大なるべしあるいはと

りちがへする事多しとなり

一 家の未申方の柱のかたわらに石を建へ[illegible]

[illegible]ハ家中に病事多しといへり

一 未申のかたに山を築へ[illegible]俱道と通ら[illegible]

すべ[illegible]白虎の道と[illegible]

[illegible]てはきこうん事ふたつ有へし

一 山をつくりて其谷を家よりもひくく高くして女

子不吉なり又谷のうちと[redacted]もひくへ[illegible]

しき修方へ[illegible]

一 門石を成美方よりもひくくすべ[illegible]

紋物金[illegible]奴畜集[illegible]成美ハ多路

[illegible]次福徳有[illegible]

[illegible]

一 面白[illegible]のある所に石を立へ[illegible]其をりとて

[illegible]人思寄[illegible]人し檜皮乃[illegible]の石に[illegible]

而乃毒ゆえなりと云あり或人云橋山松人に松ほくと云よ

[redacted]

一東方より綿石よりも大なる石の白色なるを云へり此

其主なりと犯さるべし餘方よりも其方と魁とすむ

色乃石は金石よりも大なるべし石と云へり次犯之不

吉也

一石而を面ねりんと其石をえてこれ里蒐廣なる

らは其形とまるのへりこれ中に中而と家の多り

うつてこれをむしを悔あるべきあり也

廣貴云石[redacted]蒐源より立へり次石と立はハ蒐云ものお

侍也其体云とは犯つきはあり必事有其

而久しかりすと云なり侍りと云

山なりの色つよ本あり石を其姿と犯つきはあるす

石神とあのて成崇事国多り其形よ人云

うに次但山なへてそのとへてつきはあるうよりこう

さうなし

一其石八角三日峯九ハしトせとを為云而よ不達云

席也如此石は八面守立可拾之

又色石天石は寅方より立へり次自鬼門入来鬼也

一 荒磯乃角くゝハ角日をまれとも有ゝまて不久不可学

一 潟と云とゝハ山潟と云とゝ海のくてとみるゝやゝにす
角形也山のちきれたる潟より出つゝよ象とみとへ
き也

一 巷のとゝよ丈山とゝかさねへゝ山とゝうゝあるハ出宗の字
をゝとゝ水ハ通入物成形成若悪也孤子地形よ
くゝ用云あゝへし

一 山の樹乃くゝき有ゝよ不可量瀧ゝくハ宗ハ[redacted]あゝへゝ
滝ハ水ゝ形ゝよ落ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
もさのゝもゝ伯めも也中ゝ[illegible]ゝ実乃源山ゝハ人不可

[illegible]山乃角乃色なすゝ御滝とたゝみゝく甚多ゝ樹と
せんもゝゝゝゝゝんゝ不拂木ゝ宗一向不可用ゝ

一 宋人云山ゝハ石の角也高て[illegible]ゝ
も谷ゝこゝもあるハゝとゝ角也あらてゝとゝの
しらを拂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝもあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝとのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝんもゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一池はめりい藩のすてにかうつくしあはうつくしものよきてうひてうれてうちとなるとこの池又流れとなるかきたるとうたあるとはひとせそかうへきこと

一池濁うへし池源うれは奥大也奥大なる也は悪出成て人と言す

一池より水島常よりあまた家うる妻樂こと

一池虎の方門ふ未申方へ可出也是ハ方と白虎の石へもりへて悪[illegible]とうるすへきなる池泥とし常さらさふへきす

一成変うるよ水門と知うくへうひこれ寄福と保而ある

方也

一気ハ成ものすてい方より屋中とと知りて南西へもりへて諸悪気とすくうもる也是ハ是ハ諸のあるとして諸悪と白狐の道へ今流出也人住くしも呪詛とす悪癖いてと疫気ありとしてあり

一石とうるよりとうる石と立てうる石の方ハ公うること

れ立る石に左右のわき石ハ石ハ必有へし立ハ石とて一なつかとのはうるものこと

くたてとくうもいとくはうし

一りうきすりとのつてたうるとうるとと石のうとあま

は其石は魁とする色氏石とそまつへ所はたくり
をうとるのとしてうの文三ゐ御乃立石といとを
くくそもくへしとしてり
一風のきちく二人はあまき所石と立る事は
きくうへし二年うちよりあるとをいうへし文
石とさうはなはよ立る事大きふくかうへし東北
院よ蓮仲法師のうちる所乃石樫ゐをくかせる事
一行位う
或人のいとく少人乃そまる石ハ生国の山のうちにあるら
へうしは智すくのあるとを人位しよ石ひとつよあと

まあるとしるきをうかとやはあるあまとやう
て石乃おくりよりくるとあるとあるとあう
き人のうちるふうのおとしあきあるとて
かうとはあるひたくうちるよ石のうちあるを
りとく事ハあるきを
石とうるおいるの事無きて来きてをうくよをうひ
くあ悪をうん生灰記をとら法也延園阿闍梨ハ石
をうること相傳とをうる人也事又石乃文書と法
をくをうり如此あ公とうみくく大貴と石位ちとハ
へうん風情ハうるとあくして心とうくうとを法

一但近来此事委敷れる人なくして生涯乃山水
をんとなくてるもとりまて樣子ともやきあへ
てすると事小て所勾配なる陽院殿修造の時も石
をとろる人をかうせて平たくさすやとて先に
られるものもと法四よりかつとて石れといる
事まして宮殿御所のつくり法あり甚時大常
寺天石と立る事然るに人きてはりきあのあ如きき
石をとめてまいらせそろんん人とおこうろさしある人
といまろんすると知せらるるきうしきもうえて時節
いかにもつくりあるこ亀山よりひて石をとをんを
とるる

一樹事

人乃居所の四方に水をうるをて四神具足の地とする次
へき事

經云家より東に流水あるを青龍とし西の
流あるを白虎とし前方の池を朱雀とし北の
西に大道あるを白虎とする其大なるをは楸
七ヶをうえて白虎の代とし
南に池あるを朱雀とし若其池なくしは桂九ヶを
うえて朱雀乃代とし次

北陸にあるをと書武と決定しての岳なるを言まハ
捻三十と云て書武乃代を決するのときさして
四神相應乃地となし、安居ぬる事ハ官位福禄あるか
りて無病長壽地といへり
祇樹とハ人中天上の荘厳なりかるかゆへに孤独長者か
祇園精舎をつくりて佛にまいらせんとせし時も
樹のあるひ小さつらひきまある故祇陀太子の思やう
いかなる孤獨長者か黄金をしきてかの地よきをこ
てん地のあるかしとして精舎をつくりて尺尊にまいらせて
まつるなりや我あるかの木は樹の直ととらへき小あら

決たく是を佛にまいらせんとて樹を尺尊にまいらせ
てまつりをさためぬるかゆへにこの故と祇樹給孤獨
園とたてまつり祇陀か太子と孤獨か名のとをいふなり
候なるへし
秦始皇この書を焼き儒をうつみし時も種樹の書
おはのかくへしと勅下されりとか
佛のうりをとき給ひ又あまくたりましましける時も
樹をとりあへと志て御へ入屋名このいとたまひあるへ
きことも
樹ハ又龍白虎朱雀玄武のほかハ佐道の事にいつ

道の方にうへむとものもとめしに但京人云東
ハ花の木をうへ西ハたちみをうへし
池あらハ海よハ松柳梅桜の類の
の美をつくすべきなり本とうへし
槐ハかどのにをうへ面に大臣の門ハ槐とうゑ
槐門となつくるなり大臣ハ人と信て帝王につくるま
つるこゝろなり
門前ハ柳をうゑて中繕侍の但門柳ハ出ずるべき人
ハ時の權つよくハべきとなれと制せられたる
それとも雅人の家ハ門柳うゑる事ハ是今のべき事

とゝ侍ル

事ハ東ハ方よりくるとうゑるとゝ侍り
あるべきよし侍ると侍り事
門の中心ハ侍ル所ハ侍ルとゝ
用の字より成べきなり地
方円なる地の中心ハ樹あるべし
くるむと書べし
方円の中本と国の字なるゆへ地
又方円地の中心ハ屋とそなれハ家を築也
らるべし方円中ハ人事あるゆへ因獄の字なるゆへ地

めしるるよいてころまてを用ゐあるへきこと

一泉事

人家ニ泉ハ必あるこゝ有りき事也暑とさるとき泉
小ハ志つ次志つまた唐人必つくる泉として或遠業
をするひ或げこゝのくらしものあるとくと天竺のも
須達長者祇園精舎とつくりしゐ堅牢地神東天
泉とをりきすかたき事泉是也吾朝ハ聖武天
皇東大寺とつくりたまひしゐ小手生明神泉とな
れの羅索院の閼伽井是也このほれ例かすへ例ふす
へきよあらす

泉ハ冷水とをく屋とつくりおかいけくとして養ふと
志くこと常事也冷水あるこゝ有の所ニ泉ハとら
ゐんと仮宜あくハをりあるて泉へ入角あら
りよ所ニ也ハ是ハそらむ会るくハ地底へ箱樋を泉の
中へぬせとおりてうれうへハ小ハくとつくへき也そ
水乃ありこゝ泉ハ多る地所よあらハ樋をあら乃
いるくまとハ云るてすこ所ニ也とハ次第よさけくく
れうこゝよ中けくをもくへしくこゝ所のつくのそとを
水の人なり人乃つるきこゝのハ今一すきけたまいおの
あつくこゝのあるといつる地ゐを樋ハ久あくこゝ志めしとお

色々石をあつめをのよしつすへしそしてうるくやき
さるかわらもあるなり
仮泉ふりて井のもとをうんいれむしのは井のこうんよ
ゆきまなる和を基のよしよるくすえて石のしたた
ちつさきのもとく積梅とよつをあつねのさのうち
梅のうへふけのつをあてとかしてあるとうんいるま
しとされて泉のいくよりあるあまりいてすしくえん
四郎地
泉のあるはほうへもうさ次庭へうちさあ考え先あ
せをのつあいくこの巳巻をとかさ次つくるもおせて

地のうえに一尺八寸ほり出つむ石
八枚とうきまをれをくるしまを庭の土をはらす
てくよきをよつ重のあるはれてこわやうふう生あ
出るあるはるのうへ小おを
て記るるの石をとすきはるのるとれくまるへす
点てかしくあるくれうへよ文記るる石のこうく
らけのかとなるをうこへもいれす生るまるへをき
くうれうへよの思白のけくらるる小石とハしくは地
一説作泉をとし庭へほのいれすして地のうへり
けくを建立してあるはすこをのこと次庭出

とへきこやうにもつらんへきち地ゑんあり一二尺とくきは
ハらさりてくさくさのうせ出のいそくるゆへよ常小あると
かへはかりて座の石とをつををよくくあるひく
えくあるる時あるとい入る地地よりるくつをそうる
ゆを板とはうこへほのいるる魚地地くふをあるる流
きこのそく板のみのめくりとをかりてさにをもる
魚地地

貧るをしくるのハ行くの板より鼻すくいつ
るかとよ出く流あり泉とひろくて立板より三三
尺水のおりへ行いて釣殿のすのこのとをとく

流のあり尺ハ泉へあるる時出るのこくくみえて
るのおろうきるのしる地但便宜よしたり歟人
のこのくりよるへし

當時居ずるうる地地よりあり井あきいその井の
ゆうきかのとばしてうこれあきはより樋をよ留
出しつきハ樋よりおれいつるあたるる

一

雜部

唐人の家ようなるとと樓閣あり高樓はるとよ
てう屋ゆうをてい軒みのきと樓となつけ簷長
を閣とをつく樓ハ屋とみむるる閣ハすくう

ら志めしの中とめ地麓長谷八幡すゝくゝ各あて
うたゝ所ゆへなり

右一巻以後京極殿御自筆本不違一字書寫畢

右作庭記一巻以百花庵宗因藏本書寫於仮名遣并書法雖
不審多以原本不違一字書寫今亦不私改而已矣

国立公文書館
National Archives of Japan